

2018年7月
(No.40)

あこが社協だより



目指せっ！
竹馬名人！

(特集) 地域のつながりをもう一度	2P
平成29年度事業報告・決算報告	6P
福祉用具をご利用ください！ 生活支援コーディネーター活動日誌	8P
まち発見!あこが福祉ニュース	9P
親子対象ボランティア講座 サマーボランティアスクール2018 須磨海浜水族園・ヤクルト工場への旅	10P
知っ得あんしん みんなの介護保険	11P
あこがのホットな人 No.22	12P

6月7日(木)、坂越地区民生委員児童委員11名が坂越幼稚園を訪れ、園児31名と竹馬遊びをして交流しました。最初は乗れなかった園児もあきらめずに何度もチャレンジし、最後には1人で乗れるようになり、竹馬名人がたくさん誕生しました。





特集

地域のつながりをもう一度

あなたにとって、地域とはどのような存在でしょうか
 隣近所に住んでいる人のことを、知っていますか
 自治会の活動に、参加したことはありますか

一人ひとりの生活スタイルが変わってきたことで、地域のあり方も少しずつ変化しています。その中で、もう一度地域のつながりを築いていこうと、積極的に活動を行っている地域もあります。皆さんが住む地域について、改めて考えてみませんか。

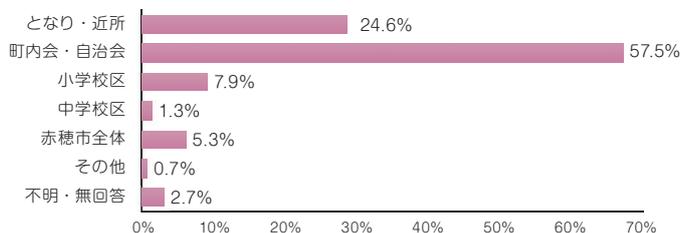


現代では、交通の発達により、通勤や通学、買い物など、地域の外へ出て行く機会が多くなりました。また、核家族が増えるなど生活スタイルが多様化し、隣近所との交流も少なく

古くから、家族や隣近所の人々との結びつきは、生活していくうえで欠かせないものであり、お互いに助けあい、支えあいながら、暮らしを守ってきました。近所の人とはみんな顔見知りで、こういつた関係は「向こう三軒両隣」などと言われました。



あなたが考える「地域」の範囲について

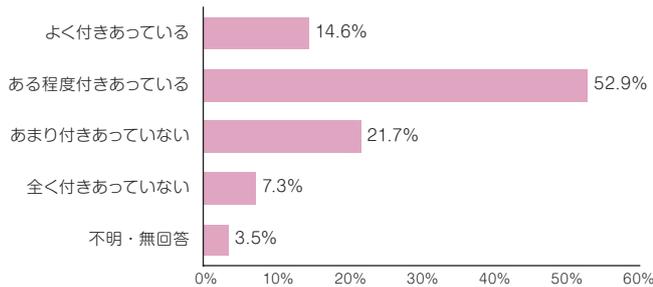


参考：「第2期赤穂市地域福祉計画」アンケート調査より

なってきたいます。「地域」という言葉を聞くと、皆さんはどのような範囲をイメージしますか？赤穂市が平成28年度に実施したアンケート調査によると、「町内会・自治会」が57.5%と最も多く、次いで「となり・近所」「小学校区」と続いています。地域の範囲に対する考え方は、年齢による大差はなく、どの年代も共通しています。

「近所との付き合い」を見てみると、「ある程度付き合いがある」が52.9%で最も多く、次いで「あまり付き合いがない」「よく付き合いがある」となっています。年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「よく付き合いがある・ある程度付き合いがある」の回答が多くなり、20代は「あまり付き合いがない・全く付き合いがない」が半数を超えます。このように、年齢によって近所付き合いの意識は異なります。

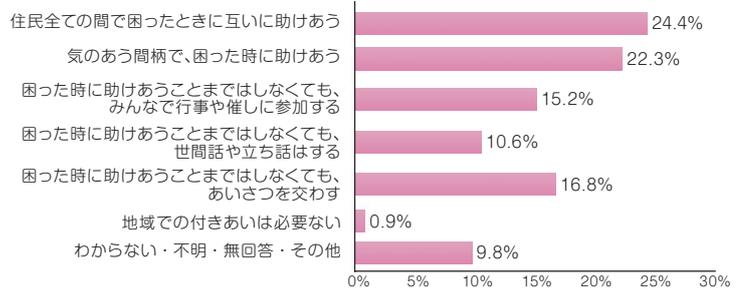
近所との付き合いについて



参考：「第2期赤穂市地域福祉計画」アンケート調査より

そのような中、望ましいと考える近所付き合いの程度としては、「住民全ての間で困った時に互いに助けあう」が24.4%で最も多く、助けあうことまではしなくても、あいさつを交わすなど、日頃からの近所とのつながりの必要性を約9割の方が感じています。しかし、仕事などで家を空けることが多く、知りあうきっかけがない、近所

望ましいと考える近所付き合いの程度



参考：「第2期赤穂市地域福祉計画」アンケート調査より

付き合いはしたいが、つい消極的になってしまっているなどの理由で、なかなか関わりが持てないという状況が、アンケート調査で明らかになっています。



地域の中には、高齢者や障がいのある方、子どもなど、さまざまな人が生活しています。近年までは、何らかの支援が必要な人への援助が「福祉」と考えられてきました。しかし現在では、孤独死や認知症による徘徊、児童虐待、ゴミ屋敷など、新たな社会問題が課題となっており、ふつうのくらしの「しあわせ」が誰にとっても必要な「福祉」へと変わってきています。

小地域福祉活動とは、自治会や隣保単位で取り組む、「ふくしのまちづくり」を目指した、住民による主体的な支えあい活動です。近隣の住民が協力し、お互いに支えあうことで地域内の信頼関係を築き、連帯感や安心感を生みます。

小地域福祉活動って、どんな活動があるの？



集会所でお茶のみ(本水尾町)



地域で芋ほり(駅東)



買い物のお手伝い(有年横尾)

他にも、あいさつ運動や見守り活動など、地域によってさまざまな活動があります。

組織を越えて、相談しあえる関係づくり

世帯数：516世帯
人口：約1,250人

～千鳥自治会(城西)～



一般住宅と3棟ずつの県営住宅・市営住宅からなり、
単身者からファミリー層まで幅広い世代が生活



昼市には毎回 60～80名が参加

昨年12月より、千鳥自治会では、住民の「買い物物が不便で困っている」という声を受けて、民間業者に依頼し、集会所を使って、隔週で「水曜昼市」を開催し、「新鮮で安い」「歩いて買い物に行けてうれしい」と喜ばれています。また「いきいきサロン千鳥」やカラオケ同好会、絵手紙教室など、集会所を拠点に、住民が集える場所が増えていきます。

村阪産代一自治会長のもとには、住民からさまざまな相談が寄せられます。「色々な意見を聞き、それを活動に反映することで、結果として自分たち役員も活動しやすくなります」と話すように、一人ひとりの話に耳を傾けたことが、水曜昼市の開催や自治会役員の負担軽減、困ったときに相談できる関係になってきています。

そんな自治会の活動をサポートしている組織があります。「遊志会」という名称で、廃品回収やいきいきサロンの会場準備、ゴルフ

誰かのため、自分のために活動を楽しむ



を通じた交流をしています。

「活動後の飲み会が楽しみの一つで、そこで地域の情報を共有しています。一緒に汗をかくことで、地域のコミュニティができる。そのつながりがあれば、災害時にも助けあえると思う」と代表の吉栖一弘さんは話します。

千鳥自治会では、子どもたちや若い世代も参加できるような企画の検討や、住民が持つ「できること」を集め、地域内での助けあい活動を進めていく予定です。

住みよい

地域づくりのために

普段の生活で、「○○だともっと過ごしやすいのに」「こんなことに困っている」ということはありませんか？それらは、自分や家庭の中で解決できるものもあれば、地域や行政の力を必要とするものもあります。

地域づくりに必要なものは「ふれあい」「話しあい」「助けあい」だと言われていきます。地域内でのふれあいを通じて、互いに顔見知りになり、連帯感を高めることができます。また、地域の状況はそれぞれ異なるため、地域のみんなで集まり、さまざまなテーマで話をする機会を設けることで、その地域の良さや課題に気づき、解決に向けた行動につなげることができま



みんなが活躍できる地域づくり

世帯数：164世帯
人口：約500人

～中浜町自治会(尾崎)～

約40年前より宅地開発が進んだ地域。一般住宅とアパートからなり、新たな宅地建設も進むが、高齢化も進行中

「集まると話をする場がほしい」という声を受け、昨年10月に活動を始めた「いきいき百歳体操」のメンバーが中心となり、6月4日に「いきいきサロン中浜」が産声をあげました。この日集まった11名は、色とりどりの千代紙を使い、お祝い袋などを手作りする「折形」を体験しました。「ここはどうやるの?」「孫のお年玉袋にしたい」など、終始話が途切れることはありませんでした。



「それぞれが趣味や特技を生かして、活躍できる場にしたい。参加者それぞれが声をかけてきてくれますが、子育て中の人や男性にも来てもらい、未永く活動したいです」と代表であり、地区の民生委員でもある馬場幸子さんは話していました。

今あるものを生かす

この活動を自治会としても全面的にバックアップする予定です。「中浜町自治会は、そこそこ近所同士で気にかけてあえる関係はあるが、



今以上に地区内の輪を広げていきたいと思っています。新たな活動を自治会で始めることは、なかなか難しいので、今ある地区の活動や行事がもつと盛り上がるようにしていきたい」と家根新自治会長は話します。

中浜町自治会では、地域の子どもの安全を守るため、町内パトロールやグラウンドゴルフ大会など、機会を設けてふれあいの場を作りながら、今ある活動をどう広げていくか、検討していきます。



これから先も安心して暮らし続けるため「支えあいの地域づくり」をすすめませんか?

地域にある日々のつながりや交流など、今あるものを大切にしながら、地域にある課題やそれを解決するために何が必要か、支えあい・助けあいができるような地域づくりに向けて、社協では話しあいの場づくりをすすめています。

自治会単位はもちろん、グループ・各種団体などでもOKです。日々感じていること、不安に思うこと、こんな地区になったら良いなあと思うことを皆さんで話しあってみませんか?

話しあいの場づくりに関する
問合せ
社協 ☎42-1397

平成29年度事業報告・決算報告

『支えあい 助けあう ころろつながる やさしいまち あこう』の実現への取り組み

(事業報告より一部抜粋)

地域での生活支援体制づくり

地域の支援ニーズの把握により、地域に不足するサービスの創出や担い手の育成、ネットワークの構築等を行う、生活支援コーディネーターを2名配置しました。

また、ちょっとした困りごとを住民同士の助けあいで解決する仕組みづくりとして「地域の困りごと応援隊事業」を平成29年10月より開始しました。

地域の困りごと応援隊事業
利用登録人数 15名
応援隊登録人数 30名
活動件数 延16件



第2次地域福祉推進計画策定

平成24年度に策定した第1次地域福祉推進計画最終年度として、5年間における取り組みの成果と見直しを踏まえ、平成30年度から始まる新たな第2次地域福祉推進計画の策定に取り組みました。

策定委員会 5回開催
地区別懇談会 9地区
各2回開催



在宅福祉サービスの積極的な展開

買物が困難な高齢者等を対象とした「買物支援モデル事業」を拡大するため、車輛を購入し、西部地区をモデル地区として毎月実施しました。また、介護者の会が実施していた「介護特別食」については、社協直営にて実施しました。

買物支援モデル事業
12回実施
介護特別食
毎週月・木曜日実施



福祉への関心の向上

「あこう社協だより」を毎月12ページ発行へ拡充し、内容の充実を図りました。また、「第30回近畿市町村広報紙コンクール」において、優良賞を受賞しました。



見守り・支えあい活動の推進

各地区まちづくり連絡(推進)協議会、民生委員児童委員協議会等の協力のもと、ひとり暮らし老人や高齢者世帯等を対象に、見守りや支えあい活動を推進しました。

友愛訪問活動
対象者・参加者 延6,893人
給食サービス
82回実施 延6,170食
三世代交流もちつき大会
市内14カ所 2,065人参加
対象者1,863人



地域のふれあいや居場所づくり

地域でのふれあいや居場所づくりとしての「ふれあい・いきいきサロン事業」では、「お試しサロン」や「ミニサロン」を行うなど実施箇所の拡大に努め、7カ所増加しました。

市内44カ所(自主運営含む)

児童福祉活動の充実

児童扶養手当を受給しているひとり親家庭を対象に、「ひとり親家庭中学生体操服購入助成事業」を新たに実施し、子育て支援の促進を図りました。

助成件数 20件



災害に備えた取り組み

いつ起こるか分からない災害に備え、関係団体と連携し、ボランティア養成や訓練を行いました。

災害ボランティアセンター
開設訓練
赤穂市防災総合訓練参加
災害ボランティア養成講座
防災士資格取得助成



地域に根ざした介護サービスの提供

介護保険事業や障がい福祉サービスの指定事業者として、地域に根ざした社協ならではの「誰もが安心して利用できる介護サービス」を行いました。

居宅介護支援(ケアプランの作成) 延1,853件

訪問介護・居宅介護(ホームヘルプ)
訪問回数 延26,034回

訪問入浴介護(入浴サービス)
入浴回数 延427回

地域密着型通所介護(デイサービス)
利用回数 延2,526回



相談支援機能の充実

市民一人ひとりの不安や悩みに対応するため、「心配ごと相談所」の開設や、生活困窮者への対応として、緊急的支援物資(食糧)の提供を行いました。

心配ごと相談所相談件数 延139件
食糧提供 10世帯16名利用



社協組織の体制強化・透明性の向上

改正社会福祉法の本格施行に伴い、理事・評議員の選出団体や人員の見直しを行いました。

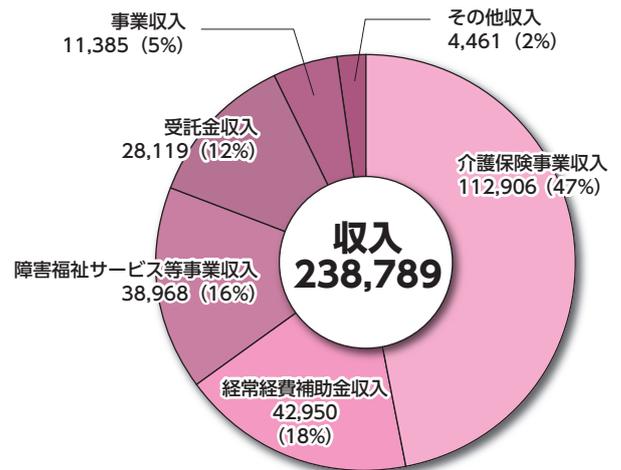
理事会・評議員会・監事会・評議員選任解任委員会
計13回

資金収支決算

(単位:千円)

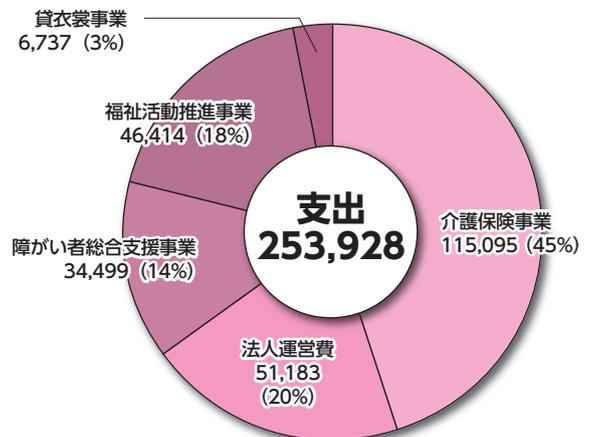
収入の部

介護保険事業収入	訪問介護事業、訪問入浴介護事業、居宅介護支援事業、地域密着型通所介護事業の介護報酬及び利用者負担金
経常経費補助金収入	市、県社協、県共同募金会からの補助金
障害福祉サービス等事業収入	障がい者(児)へのホームヘルパーの派遣による介護報酬、利用者負担金
受託金収入	市から委託されている総合福祉会館管理費や福祉用具貸与事業・視覚障がい者支援事業などのほか、県社協からの福祉サービス利用援助事業や生活福祉資金貸付制度の受託金
事業収入	貸衣裳事業利用料など
その他の収入	会費収入、寄付金収入、利用者・講座参加者負担金収入など



支出の部

介護保険事業	訪問介護事業、訪問入浴介護事業、居宅介護支援事業、地域密着型通所介護事業の運営費
法人運営費	理事会・評議員会の開催、機関紙発行、福祉のつどい、市民福祉講座、事務局職員人件費 など
障がい者総合支援事業	障がい者(児)へのホームヘルプ事業の運営費
福祉活動	小地域福祉推進事業、ふれあい・いきいきサロン支援、パートナーサービスモデル事業、三世代交流もちつき大会、友愛訪問活動、給食サービス事業、移送サービス事業、敬老事業、ボランティアセンター活動事業、善意銀行払出事業 など
貸衣裳事業	生活改善事業として衣裳の貸付



※収入不足15,139千円は前期末支払資金残高で対応

平成29年度の事業報告書・決算書については、社協ホームページに掲載します。
また、総合福祉会館社協窓口においても閲覧できます。

福祉用具をご利用ください！

社協では、身体の不自由な方や高齢者、病気やケガなどで日常生活に支障のある方を対象に福祉用具の無料貸し出しを行っています。

○対象者

- 病気やケガで一時的に使いたい
- 旅行に行く時に使いたい
- 自宅での介護に使いたい など

○費用

無料（電動ベッドのみ準備物が必要）
※原則、修理費用は自己負担

○手続き方法

社協窓口にて、申請書を記入してください。
※申請者（窓口に来た方）の印鑑をご持参ください。

○使用期間

原則、1回の申請で最長6カ月間使用いただけます。
それを超えて使用したい場合は、更新手続きが必要となります。

○問合せ

社協 ☎42-1397



ポータブルトイレ



車いす



シャワーチェア

その他にも
・ 歩行器
・ 電動ベッド
があります。



社協の福祉用具を利用している方へ～更新手続きはお済みですか？～

「すっかり忘れていた・・・」「いつから借りているか分からない」など、ご不明な点があれば、社協 ☎42-1397 までご連絡ください。

生活支援コーディネーター 活動日誌



「みんなでワイワイ盛り上がり」

～真木集会所 お食事会～

以前は手芸や料理などで集まっていた真木地域ですが、最近はその機会がなくなっていました。そんな中、「地区のために何かできないか」と考えていた村田隆子さんを中心に、今年の5月から月1回、集会所に集まって昼食づくりを楽しんでいます。この日は、9時頃から集まったメンバーお手製のちらし寿司やギョーザなどを、子どもから高齢者までがテーブルを囲み、会話を楽しみながら食べました。

「一人でも多くの人に来てもらい、みんなでワイワイできたらと思っている。みんなの意見を聞きながら、地域に根付いた活動になればと思う」と村田さんは話していました。

開催日：毎月第4日曜日 食事時間：正午～

開催場所：真木集会所（鷗和）

参加者：約15名

※会の名称は検討中です。

地域の「宝物」さがしにご協力をお願いします。
「うちの地域でこんなことしているよ」などの情報を、ぜひ社協まで連絡してください。生活支援コーディネーターが行かせていただきます。

《連絡先》社協 ☎42-1397



避難所運営のシミュレーション

6月9日(土)、「災害ボランティア養成講座」を開催し、23名が参加しました。赤穂防災士の会を講師に迎え、地震による大規模災害を想定し、避難所を運営する上で必要なことや課題・問題点をグループで話しあう、「避難所運営ゲームHUG(ハグ)」を体験し、防災知識を育みました。



私たちが取り組めること

6月28日(木)、赤穂市社協へ宍粟市社協役職員と行政職員計13名が来られ、生活困窮者への支援など、お互いの実施事業について話しあいました。

また、あこうこども食堂代表の岩崎由美子さんより運営のポイントや思いを聞き、宍粟市初のこども食堂開設に向けて、活発な意見が交わされました。



地域で進めよう！ 見守り・支えあい

6月29日(金)、パートナーサービスモデル地区情報交換会を開催し、市内で活動をしている8地区14名が集まりました。頼みごとをしあえる関係づくりなど、活動をしている中での気づきや課題、これからやってみよう取り組みについて、意見を交換しました。

まち発見!



あこう福祉ニュース



梅雨の晴れ間に世代交流

6月10日(日)、坂越にある県民交流広場において、東之町自治会主催によるふれあい行事が実施され、地区住民44名が参加しました。参加者はチームに分かれ、グラウンドゴルフや輪投げで交流を深めました。参加した照峰凧紗さん(小2)は、「難しかったけど、楽しかった」と話していました。



『聞く』は言葉のやりとり、 『聴く』は心のやりとり

6月5日・12日・19日の3日間、傾聴ボランティア養成講座を開催し、31名が参加しました。コミュニケーションスキルや傾聴時の心構えなどを学び、最終日には、参加者同士がペアになり、互いの話を聴きあうことで、実践の感覚をつかみました。

賛助会費 ありがとうございます (敬称略)

【個人】	藤田美和子 松本賢仁 伊東康子 中田晴基 大道訓敏 米田絹子 宮本章子 久野俊章 北原洋子 島田裕弘	上住晃 大田登 濱本昌宣 宮地有子 赤穂市議会議員互助会 米谷徹志 山口みな子 岸章夫 木村音彦 玉田耕生	小島愛子 山本信行 橋本久美子 山口五月 霜田直宏 藤田佳子 野山貴久子 中村文代 長谷川絃一	西濱守 山本陽三 浮田京子 竹林勇 重松英二 水野亮 戸田一子 濱田久昭 古森智恵美 匿名 2名
【法人】	あじさい (株)ジョイハシモト 大木産業(株) 東洋紙業(資) 赤穂市更生保護女性会 (有)坂元板金塗装 (株)亀井産業 アズビル(株) トヨタカローラ姫路(株)赤穂支店	米谷齒科医院 三協電機(株) (株)田原文具センター (有)小國商店 ヘルシーガーデン (株)霜野組 千種の苑 赤穂労働者福祉協議会	頓田助産所 岩谷内科 やの写真館 玄武会ヒルズ くいどうらく (株)横山サポートテック 赤穂防災士の会 三菱電機機系統変電システム製作所	御崎タクシー(株) 澤田医院 前田石油(株) 赤穂ライオンズクラブ (株)赤松工業 関西福祉大学 かんぼの宿赤穂 アトラス情報サービス(株)

福祉の拠点をみんなで支えてください。(法人会費：5,000円、個人会費：2,000円、一般会費：500円)

賛助会費は、社会福祉協議会の貴重な財源です。安定した地域福祉事業の充実や発展を図るためにも、皆様のあたたかい援助が必要です。ご協力をお願いいたします。

夏休み みんな集まれ!!

親子対象ボランティア講座

- 日時 8月4日(土) 午前10時30分～正午
- 対象 市民で手話に興味がある親子
(お子様は小学校3年生まで) 20組
- 場所 総合福祉会館3階集会室
- 内容 『とにかく楽しい親子手話講座』
- 講師 NPO法人生涯学習サポート兵庫
交遊亭 楽笑 氏
- 参加費 無料
- 申込 ☎42-1397または総合福祉
会館へご来館のうえ、お申込み
- 締切 7月27日(金)



サマーボランティアスクール2018

- 日時 8月23日(木) 午後1時30分～3時30分
- 対象 小学4年生以上の市民 30名
- 場所 総合福祉会館3階集会室
- 内容 『災害救助犬について学ぼう!!』
- 講師 認定NPO法人日本レスキュー協会
- 参加費 無料
- 申込 ☎42-1397または総合福祉
会館へご来館のうえ、お申込み
- 締切 8月16日(木)

災害救助犬と
いっしょに勉強しよう!



ひとり親家庭
ふれあい事業

～思い出刻む～ 須磨海浜水族園・ヤクルト工場への旅

家族のふれあいや仲間同士のつながりを感じながら、みんなで楽しい夏休みの思い出を作ろう!

- 日時 8月18日(土) 午前7時30分赤穂出発～午後5時30分帰着予定
- 行き先 須磨海浜水族園、ヤクルト工場(三木市)
- 対象 市内在住のひとり親家庭で親子参加ができる方
- 募集人数 40名
- 参加費 大人：3,000円 子ども：1,500円
- 申込 7月23日(月)～7月27日(金)
☎42-1397または総合福祉会館へご来館のうえ、お申込み



し 知っ得あんしん

みんなの介護保険

【在宅サービスについて①】

介護保険を使って利用できるサービスには、大きく分けて、在宅サービスと施設サービスがあります。今回は、在宅サービスのひとつ、訪問介護(ホームヘルプ)についてお伝えします。

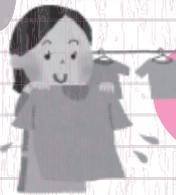
訪問介護(ホームヘルプ)では、ホームヘルパーが居宅を訪問し、生活援助や身体介護を行います。

生活援助

〈日常生活の補助〉
食事の準備や調理
掃除や衣類の整理
生活必需品の買い物 など

身体介護

〈直接身体に触れて行う援助〉
食事や入浴の介助
オムツ交換や排泄の介助
体位変換や体の清拭 など



利用者本人の自立支援をお手伝いします!

訪問介護は、利用者の「できないこと」を手伝い、その中で利用者が自分らしい生活を送れるよう「できること」を増やしていく支援です。

注意：介護保険適用の対象外となるサービス

- ✓本人以外のための家事、草むしり、花木の手入れ、通院時の病院内での付き添い、ペットの世話など
- ✓家族がいる場合の生活援助(ただし、家族が援助できない理由がある場合を除きます。)

☆ 福祉作文募集! ☆

福祉に対する理解や認識を深めていただくため、『身近な福祉問題や活動』をテーマにした作文を募集します。

- ◆応募資格 市内在住の人または市内に通勤・通学する人
- ◆応募方法 応募作品に「題名、氏名[ふりがな]、住所、職業(学校名)、年齢、電話番号」を記入し、400字詰原稿用紙(20×20マス A4サイズのみ)3枚以上5枚以内に濃くはっきりと書いて原本を提出してください。(応募作品は未発表のものに限ります。返却いたしません。)
- ◆応募締切 9月11日(火) 社協まで持参または郵送

応募者全員に
参加賞あり



◎入賞者は、12月8日(土)「障がい者週間ともに考える市民のつどい」の席上にて表彰します。(佳作は除く)

心配ごと相談所のご案内

(7月11日~8月8日まで)

- 【一般相談】 7月11日(水) 7月25日(水)
8月1日(水)
- 【弁護士相談】 (要予約)
7月18日(水) 8月8日(水)
☆8月は第2水曜日です
- 【カウンセラーによるこころの相談】 (要予約)
7月25日(水) 8月1日(水)

※時間はいずれも午後1時~5時までです
※相談は無料です (問合せ) 社協 ☎42-1397

《お詫び》

あこう社協だより6月号の「善意銀行だより」の記事の中で、預託者柴田榮一様の預託内容に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。
(誤) 亡妻(定美) 満中陰志 → (正) 亡妻(貞美) 満中陰志

あなたのやさしさを善意の窓口へ

善意銀行だより

あたたかい善意をありがとうございました
預託状況(6月1日~6月30日受付分)

赤穂市善意銀行
マスコットキャラクター



ぜんい君 こころちゃん

●委任預託

(敬称略)

住 所	預 託 者	金 額	預 託 内 容
	匿名	5,100	お誕生日に感謝
尾 崎	山根 靖子	5,000	車椅子借用御礼
	善意の募金箱	36,442	赤穂市福祉のつどいにて善意に
大 町	匿名	5,000	福祉のために
本水尾町	匿名	5,000	車椅子借用御礼
北 野 中	匿名	2,000	車椅子借用御礼
	ひまわりの会員一同	37,998	会解散に伴い、感謝を込めて
	匿名	6,481	会費の残額を
	匿名	5,000	福祉機器借用御礼
坂 越	匿名	2,000	車椅子借用御礼
大 津	匿名	5,000	車椅子借用御礼

◎善意銀行受付窓口・・・赤穂市社会福祉協議会◎

今回は、もうすぐ400号を迎える自治会広報紙「ふくうら」の発行に携わっている吉栖さんにお話を聞きました。

Q. 活動を始めたきっかけは？

A. 「子どもたちのいきいきとした姿を村の人に知ってもらいたい」子ども会役員をした時にそう思い、子ども会の広報紙を作ったのが始まりです。子ども会会員の家だけに配布していましたが、その後、自治会の広報紙も作ることとなり、両紙とも全戸配布されるようになりました。

Q. 活動をしていてうれしかったことは？

A. 子どもたちの作文や活動などを載せた時、子や孫と住んでいないおばあさんたちの、「これはどこの子や？」「誰それさんの孫やがな」というような話題が聞かれたことです。また、子どもからおじいさんおばあさんまでいろんな人に会えることがなにより楽しい。子どもには子どもの目線で、年上の方には敬意を持って出会いを楽しんでいます。

Q. これからの目標は？

A. 活動が生活のリズムの中にあり、時期に合わせて体が自然と動きます。振り返れば、月1回の発行をこれまで一度も休んだことはなく、続けることが一つの自分の健康法かもしれません。よどむことのない空気存在でありたいです。



神出鬼没の一匹狼
よしずみ
吉栖清美さん (福浦本町)



「平成30年大阪府北部地震」義援金募集

6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震により、甚大な被害が生じました。大阪府共同募金会では、被災された方々を支援することを目的に、義援金の募集を行っています。
※詳細につきましては、大阪府共同募金会のホームページをご覧ください。

(大阪府共同募金会 義援金受入口座)

- ゆうちょ銀行 口座記号番号 00950-9-333113
大阪府共同募金会大阪府北部地震義援金
※ゆうちょ銀行窓口での振替料金は無料
(ATMを利用しての振込手数料は有料)

(支部受付)

- 兵庫県共同募金会赤穂市支部窓口(社協内)において受付

※赤穂市支部では受領書を発行し、正式な領収書は、後日大阪府共同募金会から送付されます。また、福祉会館ロビーに募金箱を設置しています。



■ 編集後記 ■

上記「あここのホッと～な人」欄にて、地域活動の先駆者、吉栖さんにお話をうかがい、とても楽しい時間をいただきました。今回は自治会広報紙について取り上げましたが、その他にも取り組まれている活動は数限りなく…。(写真は親善野球大会での取材風景)

現役で仕事をしている時から変わらずやっているということに驚きと尊敬です。日々、時間がない、とぼやきがちですが、生活の中で時間を上手く使い、そのときどきを楽しんでいきたいです。(阿)



ご意見・問合せは

ホームページもぜひご覧ください！

社会福祉法人 赤穂市社会福祉協議会 〒678-0232 赤穂市中広267番地
電話 0791-42-1397 / FAX 0791-45-2444
E-mail ako-shakyo@ako-shakyo.jp

赤穂市社協

検索